

(株)東日本板橋花き

～「私たちは心を商っています」～

東京都中央卸売市場に入り22年が過ぎ、社訓でもある「私たちは心を商っています。」を何十回もかみしめてまいりました。「心を商う」とは、最終的には買っていただいたお客様の笑顔、もしくは、そのお客様のお渡し先のお客様の笑顔だと考えています(エンドユーザーとか消費者とか大きなくりでは無く)。

そのためには様々な要件が有ると思いますが、仲立ちの市場としますと以下の3項が主題とっております。

- ①買参人さんや仲卸さんへの高品質(流通品質として)での安定供給や商品提案
- ②安定集荷ー産地との密なコミュニケーションによる産地に対する提案やアドバイス
- ③社員に対し、様々な講習会や品種展示会、消費拡大イベント、商談会へ参加し、賞品知識の向上やスキルアップにより、各々の直接のお取引先への提案の高度化

他にも東京都中央卸売市場の卸売会社として、社員の皆さんアルバイトの皆さんまたそのご家族、株主の皆さん、お取引業者様への将来展望と責任、また、地域社会への貢献等も有ります。まだまだ至らない点が多々ですが、明るく前向きに取り組んでいきたいと思っております。



江川社長



セリ場の様子

弊社のMPS-GPAの認証取得は2008年でした。当初は生産者の方々がMPS-ABCを取得し始め、意識が高い生産者の方々とトレーサビリティを行うため、市場としてもMPS-GPAの取得は不可欠な物だと思い認証取得に手を上げました。現在ではMPS-GPAの品質マニュアルのフォーマットは有るようですが、当時は一から品質マニュアル作りをしなければならなかったため、非常に大変な思いをしたのを覚えております。

実際にMPS-GPAを取得する際の審査が始まった時には、品質管理、労務管理、顧客満足度調査等の今までの市場業務では行っていなかった所までチェックされるので、新たな事に気づかされる点も非常に多く、会社として非常に役立ちました。また、毎年の審査でも新たな視点からのチェックも入るので、より良い環境づくりには役立っていると思います。

MPS-GPAの取得後、品質管理の点で一番大きかったのが日持ち試験室の設置ではないかと思えます。MPS-GPAを取得する際には、日持ち試験室の設置は関係ありませんが、品質や花の鮮度、日持ち等を検証するにはどうしても日持ち試験室が不可欠となりました。2009年には日持ち試験室を設置し、今では様々な検証にフル活用しております。



日持ち試験室

現在の所、MPS-ABC(生産者)の参加が少ないですが、花き産業振興法にも謳われている国産花きの輸出にも国際認証であるMPSは有効だと思いますので、国内流通のトレーサビリティは勿論、広がりを見せてくれる事を期待しております。